やましろ外国語教育チャレンジサイト
外国語科評価編（中学校）①

今年度は新学習指導要領が小学校では全面実施、中学校では移行期間の最終年度にあたり、今後の外国語教育を方向付ける大切な節目の年です。

山城教育局では、新しい学習指導要領で大きく変わる外国語教育について「やましろ外国語教育チャレンジサイト」を立ち上げ、先生方が指導される際の参考となるよう、様々な情報を提供していきたいと考えています。

先生方が新しい外国語教育に積極的にチャレンジしていけるような「やましろ外国語教育チャレンジサイト」でありたいと考えています。また、小中学校双方の情報を紹介することによって、小中接続の一助になればとも考えています。山城外国語教育チャレンジサイトでは以下の5つの内容について紹介していく予定です。

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に基づき資料提供させていただきます。

新しい学習指導要領の趣旨の実現に向け、「このサイト」も参考にして取り組んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。
随時更新をしますので御意見御感想をお願いします。

山城教育局yamasiro-k-gakkyo@pref.kyoto.lg.jp

外国語科評価編（中学校）①

中学校では来年度から新しい学習指導要領が全面実施となります。評価の観点が変わりますが具体的な評価のイメージがわきません。

新しい学習指導要領では学習内容や学習評価など子どもたちの学びが変わります。そのためにも指導（授業）の改善が必要となります。これから具体的な例を紹介していきます。

新学習指導要領が中学校では来年度から完全実施となります。

学習評価は学習指導要領に示す目標や内容を踏まえて、小・中・高等学校の各教科を通じて**4観点**から**3観点**に整理されました。

新しい観点
- ○知識・技能
- ○思考・判断・表現
- ○主体的に学習に取り組む態度

観点A～C評定1～5は変わりません

ベースは子どもたちを励ます評価です

3観点5領域を評価する

3つの観点で5つの内容のまとまり（領域）を評価していきます。外国語は聞くこと、読むことを理解の領域、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことを表現の領域と区別します。表現の領域は3つの観点を一体として見取りますが、理解の領域は知識・技能と思考・判断・表現を分けて評価していきます。

	聞くこと	読むこと	話すこと〔やり取り〕	話すこと〔発表〕	書くこと
知識・技能	理解の領域		表現の領域		
思考・判断・表現					
主体的に学習に取り組む態度	知識・技能と思考・判断・表現を分けて見取る		知識・技能と思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度を一体的に見取ることもできる		

「一体に見取る」というのは一つの言語活動の課題等で3つの観点を一緒に評価するということ

理解の領域の知識・技能と思考・判断・表現の観点ではテスト作成の仕方も変わってきます

ペーパーテスト例

第3編事例3
P69,67

聞くこと（知識・技能）

話される英語を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を，それぞれ１から４までの中から１つ選びなさい。

ポイント

知識・技能は「聞こえてきたことがわかる」

（スクリプト）

My school was built in 1997,so it is 22years old. We celebrated its birthday at school on May 15th.

聞くこと（思考・判断・表現）

1　あなたの学校では，今週の土曜日に英語のイベントに出かけます。当日に向けて担任の先生に確認しようと思っていたことを書き留めていた【メモ】を見ながら，あなたは担任の先生の指示を聞いています。聞いた後，あなたが担任の先生に確認する必要がある内容はアからエのどれですか。最も適切なものを一つ選びなさい。

※「必要な情報を聞き取ること」を評価する問題

【メモ】

□集合時間
□集合場所
□終了時刻
□持ち物

ポイント

思考・判断・表現は「話し手、書き手が一番伝えたかったことをつかんでいる」

（スクリプト）

Please listen carefully. I will tell you about the English Camp at Sakura Hall this Saturday. It will start at 10 am, so please arrive there by 9:45. Remember to bring your handbook, a pencil, and an eraser. You will need your gym shoes, too. You don't have bring lunch. You will be making curry and rice with your friends and the ALTs. Don't bring any snacks! Any questions?

ペーパーテスト例

第3編事例4
P76

書くこと（知識・技能）の文脈や使用場面がない問題例

NG例です

例１：以下の文から１カ所誤りを探して，現在進行形の文に訂正しなさい。

I'm just watch TV.

例２：以下の単語を並べ替えて正しい文を作りなさい。文頭に来る単語も小文字になっています。

（ア playing イ are ウ now エ we オ basketball ）

よく見る問題ですが記録に残す評価のテストとしてはNG例で取り上げられています。今回の改訂では**文脈や使用場面がない**ためこのような問題は適さないということです。

第3編事例4
P73

書くこと（知識）の文脈がある問題例

■問題例①（主に「知識」を評価する問題）

次の会話文を読んで，空欄に入る最も適切なものを選択肢の中から１つ選びなさい。

A: Where is Mike?

B: Over there. He (　　) badminton with Yuki.

A: I see. Thank you.

ア plays　イ is playing　ウ played

is playing が入ることを文脈から判断

文脈に応じて特定の言語材料を正しく選択できるかを評価する問題です。事例4には選択したり書き換えたり、複数の文を正しく書く問題まで紹介されています。

ペーパーテストやワークシート問題の作成方法

テスト問題を作成する際，以下の項目を確認しながら進めることが大切である。

第3編事例4
P76

- □ 評価する言語材料を何にするかを決める。
- □ 出題のねらい（主として評価するのは，「知識」か「技能」か）を決める。
- □ 文脈や使用場面がある問題を作成する。

ここが強調されている

- □ 解答する際に使用する言語材料を明示していないかどうかを確認する。
- □ 出題方法（多肢選択式，記述式等）を決める
- □ 評価する対象の言語材料以外の言語材料における誤りで減点したり誤答としたりといった採点基準になっていないかを確認する。
- □ 「知識・技能」の問題の配点が高くなりすぎていないかを確認する。

リスニングテスト（外国語理解の能力）　＊今年度
↓
聞くこと（知識・技能）
聞くこと（思考・判断・表現）

来年度からは分けて作成します

外国語科評価編（中学校）①ではテスト作成の具体例を紹介しましたが評価について重要なことをしっかり確認しておきましょう。

①「評価」は生徒が
〇自信を付けるもの、学習意欲を向上させるもの
⇒教師の「指導改善」や生徒の「学習改善」につながる

②生徒ができるようになってから「記録に残す評価」を行う
⇒評価場面は単元末もしくは学期末でおこなう
「指導改善」「学習改善」を繰り返し、生徒の力を評価できる状態まで育てる

③英語は“言葉”であるということ
使う場面を与えて時間をかけて、意図的な指導で力を育成する
⇒学ぶ時期と身につく時期は違う（言語を身につけるには時間がかかる）

学習評価について考えることは「授業（指導）」について考えること、指導と評価の一体化を目指しましょう！

外国語科評価編（中学校）②へつづく